

## ベガルタ仙台・市民後援会主催「サポーターズカンファレンス」議事録

- 開催日時 2025 年 12 月 20 日(土) 13:30～14:50
- 会場 仙台市市民活動サポートセンター セミナーホール、リモート
- 参加者 サポーター、市民後援会スタッフ 計 88 人

### ○開会にあたって

本日のサポーターズカンファレンス(以下、サポカン)の開催趣旨について、改めて説明する。初めて参加される方もいるため、経緯を整理しておきたい。

クラブは創設から 31 年の歴史を持つが、当初は「サポーター集会」という名称で、不定期に集まりを開催していた。これは、監督の解任があったなど、クラブ側からサポーターに説明が必要な事態が発生した際に行われていたものである。しかし、その場ではクラブの事情とサポーターの思いが正面からぶつかり合い、時に不毛な言い合いになることもあった。

その後、1999 年に後援会が立ち上がり、主催を

後援会が担う形で「サポーターズカンファレンス」という名称に変更した。さらに、何か問題が起きた時だけでなく、平時から定期的にサポーターとの対話を行うべきだという考えで開催するようになった。これにより、問題発生時にも建設的な意見交換が可能になると考えられたのである。クラブもこの方針に同意し、サポカンは継続的に開催されてきた。

したがって、本日のサポカンは特定の問題が発生したことを受けての開催ではない。シーズン終了にあたり、総括が必要であると後援会が判断したためである。サポーターとしてもシーズンを振り返り、総括的な意見交換を行う場としたい。

なお、サポカンの開催にあたっては、クラブにゲストとして参加を依頼してきた。しかし、ここ 2 年ほどクラブの参加はなく、今回も参加を要請したものの、回答は「参加は難しい」というものであった。クラブからの出席はないことを、冒頭で申し上げておく。

今年 7 月には横浜ダービーでトラブルが発生し、Jリーグも処分リリースの中で、平素からのクラブとサポーターのコミュニケーションが重要であることを表明している。そのような状況を踏まえると、クラブの不参加は非常に残念である。

本日の参加者は、現地参加予定が 67 名、リモート参加が 21 名、合計 88 名である。

### ○議事の段取り

本日の議事進行について説明する。

まず、クラブへの意見・要望と、それに対するクラブの回答を記載した資料を確認する。クラブの回答をそのまま受け止めるだけでなく、質問をされた方は追加で意見を述べてもよい。また、その他の参加者からも感想や意見があれば発言いただきたい。これらを丁寧に確認していく。

次に、サポーターへの意見が数点寄せられており、後援会への意見も含まれている。これを踏まえ、議題の 2 番目として「2025 年シーズンの総括」と「2026 年シーズンの応援方針」について議論する。2026 年は変則的なシーズンとなるため、中心部からいま考えていることがあれば発言をしてもらい、参加者の意見を伺う場としたい。

最後に、3 番目の議題として、後援会からの説明を行う。

以上、3 点を本日の議事進行とする。

それでは、最初の議題であるクラブへの意見・要望の確認に入る。お手元の資料をご準備いただきたい。

### ○クラブへの意見・要望と回答の確認

事前に参加者からクラブへの意見・要望を収集し、クラブから回答を受けている。本日はクラブが欠席のため、司会者が回答を読み上げ、それに対して会場のサポーターから質問や意見を受ける形式で進行する。

なお、意見・要望の内容は粒度が異なり、項目也多岐にわたるため、大きく以下のカテゴリーに分類してクラブに質問している。

- ・試合運営
- ・グッズ・飲食
- ・チームの強化
- ・広報
- ・経営・協賛
- ・その他(市民後援会・サポーター)

まずは試合運営に関する項目から確認する。

#### No.1: 試合運営に関する意見

(意見・要望)

ナイトゲーム終了時の退場時にアナウンスがなく、非常に危険である。個人的には怪我人が出る可能性があるため、現状の運用はやめてほしい。

(クラブの回答)

安全確保のため、保安灯を点灯させるなどの対応を行っている。把握できていない問題やトラブルがあった場合は、状況を確認し改善する。アナウンスについては暗転前に放送しているが、スタジアム環境により聞き取りづらい場合があると考えているため、精査した上で実施する。

司会者

この回答に対して、質問者から追加意見や確認があれば発言いただきたい。また、他の参加者からも意見があれば伺う。特に発言がなければ、次の項目に進む。

#### No.2: 出禁サポーターの復帰について

(意見・要望)

出禁となっているサポーターの復帰時期、または進展があれば教えてほしい。

(クラブの回答)

個別のサポーターの処分内容や経過は機密事項に該当するため、回答できない。ご了承ください。

#### No.3: 自由席の指定化について

(意見・要望)

自由席の指定化について、クラブはどのように考えているのか。将来的に導入するのか、それとも現状維持なのか。ビジョンを示してほしい。

(クラブの回答)

自由席の指定化については、様々な意見を受け、クラブ内で検討した結果、ライト層やファミリー層が座席確保に困らないよう「ファミリー指定席」を新設した。過剰な席取りにより多くの来場者に不便や迷惑が生じる場合は、将来的に指定化を検討する必要があると考えている。常により良い観戦環境を整えるため、その都度協議を行い、必要に応じて改めて皆様の意見を伺いたい。

(参加者)

「ブランメル時代から応援している。自由席の指定化についてだが、昔から“俺の場所”という感覚があり、自然な住み分けが存在していた。例えば、じっくり観戦したい人はゴール裏寄り、応援したい人はバックスタンド寄りという傾向である。しかし最近の応援層はその住み分けを理解していない場合がある。

川崎フロンターレやFC 東京のように、応援エリアと観戦エリアを緩やかに分ける仕組みがあれば分かりやすいのではないと思う。ただし、厳格な指定ではなく、あくまで目安としての住み分けが望ましい。

応援スタイルや観戦ニーズは多様化しているため、クラブはそれに応える方向性を模索すべきだと考える。お互いが気持ちよく観戦できる環境を整えることが重要である。」

No.4 と 10: 自由席の過剰な席取りに関する対応

(意見・要望)

クラブが過剰な席取りを防止するため映像でチェックしていると聞いているが、プライバシーの問題に抵触しないのか。映像に記録されることを懸念する声もある。

過剰な席取りに関して、夫婦で来場する場合に先に入場した夫が妻の席を確保すると、周囲から「席取り禁止」と指摘され、現場の雰囲気が悪化することがある。この点についてクラブはどう考えているのか。

(クラブの回答)

防犯カメラによる撮影・記録は防犯上の運用であり、公にする前提ではないため、プライバシー上の問題は無い。映像データは内部で厳密に管理している。

また、クラブでは「一人で複数席を確保する行為」や「後から来場する同行者分の席の確保」を過剰な席取りと定義し、より多くの来場者が着席できるよう防止策を講じている。一部の来場者には不便をかける場合があるが、理解と協力をお願いする。

(司会者補足)

クラブ公式ホームページには禁止行為として「席取り行為」が明示されており、具体例として「一人で一列 12 席確保」や「後から来場する同行者分の席の確保」が記載されている。このため、夫婦での席確保も規定上は過剰な席取りに該当する。

(参加者)

「席取り問題は非常に難しい。一人一席を厳密に守ることは現実的ではない。文字で厳しく規定してしまうと、スタジアムの雰囲気を損なう恐れがある。応援文化を考えると、もう少し柔軟性を持たせるべきだと思う。」

(参加者)

「抽選制に移行した際、クラブの運用方針が変わったように感じる。以前は柔軟な対応があったが、現在は厳格化している印象がある。方針変更の経緯を確認してほしい。」

(参加者)

「自由席は本来、誰でも座れることが前提。しかし、後から来る人の席を少し確保したいという気持ちは理解できる。それが過剰と判断されると、認識が変わってしまう。どこまでが許容範囲なのか不安である。」

(参加者)

「『席取り』と『過剰な席取り』の違いが不明確である。過剰とは何席以上なのか、基準をクラブに確認してほしい。現状では解釈が曖昧で、混乱を招いている。」

(司会者コメント)

クラブにはこの回答をもらった後で確認をしている、しかし再回答は「ルールはルール」という立場であるとのこと。サポーター間で自主的に調整する余地を残すべきだという意見が多いと認識している。クラブの規定は詳細すぎるとの指摘もあり、他クラブでは曖昧な表現で運用している例が見られる。今後、クラブに対して「規定の書き方を再検討すべき」という要望を伝える方向で整理する。

No.5: ユアスタ開催時の旧アリオ駐車場活用について

(意見・要望)

ユアスタ開催時に旧アリオの駐車場を活用してほしい。

(クラブの回答)

クラブも課題を把握しており、近隣店舗と連携しながら対応している。引き続き公共交通機関の利用を呼びかける。個別の駐車場との交渉事項については回答を控える。

(司会者コメント)

具体的な進展は不明だが、交渉しているとの回答。引き続き状況を確認する。

No.6: 北エントランスの再入場口の分かりづらさ

(意見・要望)

北エントランスの再入場口が分かりづらい。

(クラブの回答)

分かりやすく改善する予定。

#### No.7: 先行入場の抽選方法について

(意見・要望)

年間チケット購入者とハーフチケット購入者が同じ条件で抽選されるのは不公平ではないか。

(クラブの回答)

ご意見を参考に、今後の検討材料とする。

会場意見

(参加者)

「回答が『検討材料とする』だけでは不十分である。アンケートを取った以上、検討結果を明示すべきだ。『検討します』では回答になっていない。検討の結果、実施するのかしないのか、期限を示してほしい。」

(参加者)

「同感である。検討には実現可能性の高いものと難しいものがあるはず。その区別や、検討結果をいつ知らせるのかを明確にしてほしい。」

(司会者コメント)

この意見は他の項目にも共通するため、クラブに対し「いつまで検討するのか、いつ結果を教えてもらえるのか」回答を」を要望する。

#### No.8: トイレの洋式化について

(意見・要望)

トイレの洋式化を進めてほしい。

(クラブの回答)

トイレは仙台市の管理物件であり、次年度以降の洋式化予定はない。混雑対策として待機列整理など運用面で対応する。指定管理者として仙台市と予算・整備について協議を継続する。

(司会者補足)

クラブは指定管理者だが、設備の修繕は任されている、更改の権限は所有者(仙台市)にあるのが一般的である。

#### No.9: スタンド通路の動線確保について

(意見・要望)

ユアスタに戻ってから観客数が増え、スタンド通路の動線確保に課題がある。

(クラブの回答)

物理的改善は難しいため、運用で工夫して対応する。

(司会者補足)

関連して、ペDESTリアンデッキでの飲食出店による分散案が提起されている。クラブは仙台市との協議や費用対効果を検討中。ラグビー日本代表戦での事例も参考にする。

#### No.11: 地元出身芸能人による発信について

(意見・要望)

ベガルタ仙台にゆかりのある地元出身芸能人に対し、情報発信への協力を依頼できないかという要望があった。他クラブが著名インフルエンサーを活用している事例が挙げられ、同様の施策を期待する声である。

(クラブの回答)

各種インフルエンサーによる発信は効果が高いと認識している。しかし、コスト面と成果の妥当性を慎重に見極める必要があるため、タイミングやキャスティングを含め、今後も検討を続ける。

(司会者補足)

過去の取り組みとして、地域では知名度が高くなくても全国的には影響力のあるインフルエンサーを起用した事例が紹介された。この経験を踏まえた上で、今回のクラブ回答も同種の観点を含んでいると考えられる旨の説明があった。

#### No.12:観客数の伸び率に関する分析

(意見・要望)

ベガルタ仙台は他クラブと比べ観客数の伸び率が低いように見えるが、その要因をどう分析しているのか、また伸び率向上のためにどのような施策を検討しているのか、という質問である。

(クラブの回答)

今シーズンは入場ルールの変更などもあり、観客数の進捗率のみで評価することは難しいと認識している。観客数の増加も重要であるが、クラブとしては“チケット収入という形で応援していただけるクラブ”を目指すことが重要である。そのため、入場料収入を重視した指標を軸に今後も施策を検討していく。多くの方にお誘い合わせのうえ来場いただきたい。

(司会者補足)

2019～2025年のクラブ別入場者数を比較すると、2020年のコロナ禍により各クラブが大幅な減少に見舞われた点は共通であり、ベガルタ仙台のみが特別に落ち込んだわけではない。また、2021年以降は右肩上がりの傾向である。

一方で後援会としては、2019年(J1所属時)の入場者数に戻っていないことを一年を通して問題提起してきた。J2の20クラブの中でも2019年比で戻せていないクラブは5つ程度であり、ベガルタもそのひとつである。

クラブ側は、

2019年はJ1であり、アウェイサポーターが現在より約1,000人多かった

この差を補正すれば、2019年比で98～99%の回復水準である

と説明しているが、他クラブの伸び率の方がやや上回っている現実もある。

さらに、クラブ回答が「入場者数」ではなく「入場料収入」を中心に述べているため、論点が十分に噛み合っていない。

入場者数に関する議論は今後も継続する必要がある。

#### No.13:席探しアシストの取り組み

(意見・要望)

席探しアシストは非常に良い取り組みであるという評価が寄せられた。実施が容易ではない面があることを理解しつつも、席探しに困っている観戦者のため、継続的な実施を求める。

(クラブの回答)

お褒めの意見として受領した旨の回答。今後も改善を図る。

#### No.14:利府地域での集客効果

(意見・要望)

利府地域でのイベント実施およびキューアンドエースタジアム みやぎでの試合開催により、どの程度の集客効果があったのか。

(クラブの回答)

開幕前に利府周辺の店舗等を訪問し、イベント実施や招待企画を行った結果、利府町全体でベガルタへの関心が高まった。その後のユアスタでの試合でも継続して来場いただいていると感じている。

No.15:各種案内ガイドの改善

(意見・要望)

ユアスタ案内、ビギナーズガイド、Jリーグチケット販売画面などが分かりやすく改善されている。

(クラブの回答)

より良い情報提供につながるよう、今後も改善に努めていく。

No.16:ペDESTリアンデッキの活用について

(意見・要望)

ユアスタに戻ってから、ペDESTリアンデッキを飲食出店や待機列分散に活用してほしい。

(クラブの回答)

仙台市との協議や費用対効果を考慮し、検討を進める。過去のラグビーイベントでの事例も参考にする。

No.17:秋田での待機列整理方法について

(意見・要望)

係員ではなく、最後尾の来場者が「最後尾札」を持ち、次の来場者に渡す方式を導入してはどうか。

(クラブの回答)

ご提案を参考に、今後検討する。

No.18:飲食店の出店と飲食スペース拡大について

(意見・要望)

飲食スペースを拡大し、待機列の混雑を緩和してほしい。

(クラブの回答)

スペースは限られているが、出店内容や待機列の工夫など改善策を検討する。

No.19:グッズデザインの改善について

(意見・要望)

もっとシンプルでかっこいいデザインのグッズを作してほしい。

(クラブの回答)

ご意見を参考にする。

No.20と21:冬物グッズの充実について

(意見・要望)

秋春制に対応し、毛糸の帽子や普段使いできる冬物グッズを充実させてほしい。

(クラブの回答)

冬物グッズは常にラインナップしているが、さらに充実させる。なお、12月や2月のホームゲームは極端に増える予定はない。

No.22:カレーのブランディング継続について

(意見・要望)

「カレーは飲み物」のブランディングが成功したのに、その後の取り組みが弱いのではないかな。

(クラブの回答)

ご意見を参考に、今後の検討材料とする。

No.23:シュート練習の増加について

(意見・要望)

遠目からのシュートをもっと打ってほしい。

(クラブの回答)

ご意見に感謝する。

No.24:夏のキャンプ予定について

(意見・要望)

夏のキャンプ予定を早めに知らせてほしい。イベント準備に影響する。

(クラブの回答)

検討中であり、決定次第リリースで知らせる。

(司会者補足)

後援会としても、「ベガルタ七夕企画」等のイベント準備に影響するため、早期情報提供を強く要望する。

No.25:練習試合の相手について

(意見・要望)

練習試合で J1 クラブと対戦できないのか。

(クラブの回答)

対戦相手はタイミングや距離、環境で決定するため、カテゴリーは関係ない。

No.26:GK プロジェクトの拡大について

(意見・要望)

GK プロジェクトを他ポジションでも実施できないか。

(クラブの回答)

フィールドプレイヤーは人数が多く、現時点では難しい。ただし、トップチーム選手がカテゴリー別トレーニングに参加する機会はある、可能なタイミングで実施を検討する。

No.27:監督の決意表明とクラブの対応について

(意見・要望)

監督が「自動昇格を狙う」と強い決意を示した。クラブも補強や体制面で全力支援を約束してほしい。

(クラブの回答)

自動昇格に向け、クラブ一丸となって戦う。

No.28 と 29:庄子 GM インタビューに関する質問

(意見・要望)

インタビューで「守備基準を十分把握できていなかった」「攻撃的で主役になれるチームを目指す」と発言していたが、現状そうならない場合、ブーイングしてもよいのか。

(クラブの回答)

補強の詳細は機密事項のため回答できない。ブーイングは禁止事項ではないが、監督や選手の後押しになる声援をお願いする。

No.30:アンケートの公平性について

(意見・要望)

クラブがアンケートで都合の良い質問だけを選んで回答しているように見える。やっている感を出すためのアンケートではないか。

(クラブの回答)

すべての意見を公開することは困難なため、一部を抜粋して掲載している。今後もアンケート結果を公開し、意見を反映していく。

(司会者コメント)

形式的な回答であり、透明性を求める声が強いので、掲載の基準等を明確にしてくれるよう要望する。

No.31: 木下グループ撤退の理由

(意見・要望)

木下グループ撤退の理由を知りたい。

(クラブの回答)

スポンサー企業との交渉内容は機密事項のため公開できない。

No.32: 市民クラブの限界と経営方針

(意見・要望)

市民クラブには事業拡大の限界がある。民間企業への譲渡や株主構成の変更を検討してほしい。

(クラブの回答)

事業規模拡大に関する具体的な動きは機密事項のため回答できない。動きがあればリリースで公表する。

(司会者補足)

過去のサポカンでも語られているとおり、市民クラブであっても親会社を持つことは可能であり、経営規模の拡大は経営努力次第。SNS で見られる「市民クラブ＝資金不足」というのは短絡的発想だと思う。

No.33: 事業規模拡大と J1 昇格への考え方

(意見・要望)

J1 昇格に向けた事業規模拡大についてクラブの考え方を示してほしい。

(クラブの回答)

スポンサー収入と入場料収入を伸ばすことが最優先の施策である。

No.34: 来期予算の見込み

(意見・要望)

来期は 30 億円以上の予算が必要と考えるが、見込みはどうか。

(クラブの回答)

新シーズンの予算は策定中のため公開できない。

No.35: 増収クラブとの比較

(意見・要望)

他クラブは増収しているが、ベガルタ仙台は伸びていない。原因は何か。

(クラブの回答)

ユニフォームスポンサーの離脱による収入減が主な理由。

No.36: 首都圏・関西圏でのスポンサー開拓

(意見・要望)

アウェイに多数の仙台出身者が来ている。スポンサー開拓に活かさないか。

(クラブの回答)

ご意見を参考にする。

No.37: 赤字予算の理由



(意見・要望)

今年の赤字予算の理由にキューアンドエースタジアム みやぎ使用経費増が挙げられたが、事前に準備できなかったのか。

(クラブの回答)

費用を抑えるため企業努力を行い、当初よりもコストを削減できた。

No.38:クラブがサポカンに出席しない理由

(意見・要望)

クラブがサポカンに出席しない理由を知りたい。

(クラブの回答)

2026 年シーズン前にクラブミーティングを開催し、運営方針や新選手情報を説明する予定。アンケートを実施し、より多くのサポーターの意見を反映する。サポカンは参加者が限定されるため、クラブミーティングで広範な意見交換を行う。

(司会者補足)

クラブは「サポカンは特定の意見に偏るため、統計的に優位なデータを重視する」と説明している。しかし、熱心なサポーター層と直接語り合う場を共有することは重要である。サポーターの意見をすべて受け入れる必要はなく、異なる立場だとしてもそういう考えがあることを理解することが重要。出席を望む声が多ければ、クラブに要望を伝える。

(参加者)

出席してほしいという声が多数。反対意見はなし。

○市民後援会への質問・意見・要望

No.39:コレオグラフィーと応援スタイルについて

(質問)

今シーズン、コレオグラフィーや応援スタイルが見えなかったが、どうなっていたのか。

(後援会からの説明)

ユアテック様がホーム開幕戦と最終戦でチアペーパーを配布していたが、その後は配布がなくなった。応援演出については、中心部から「やりたい」という提案があり、後援会は保有していたチアペーパーを提供し協力した。ただし、後援会が必ず実施するものではなく、主体は応援団体であり、後援会はサポート役に徹している。

No.41:後援会活動への評価と今後の方針

(意見・要望)

ゴール北の観客席下にある砂利倉庫で後援会の荷物を見て、活動を知った。後援会の努力に感謝する。

(後援会からの説明)

感謝の言葉を御礼申し上げる。後援会は 27 年前の設立時から「サポーターのサポーターになる」ことを理念とし、サポーターが楽しく応援できる環境づくりを目標に活動してきた。今後もこの方針を継続し、サポーター支援に取り組む。

○サポーター中心部への質問・意見・要望

No.42:旗を振るタイミングの統一について

(質問)

試合中に配布された旗を振るタイミングを揃える予定はあるか。

(中心部からの回答)

特に決まったタイミングはない。必要に応じて後半開始時やサイドチェンジの際など、応援の流れに合わせて実施している。

No.43: 応援活動への評価と継続意向

(意見・要望)

「夜鍋カンパ」の応援演出は非常に良かった。他のプロスポーツと比べても高いクオリティだと感じる。今後も応援活動が続けてほしい。

(中心部からの回答)

評価に感謝する。今後も応援活動を継続していく。

No.44: L字エリアの応援強度について

(質問)

L字エリアの応援強度が低いと感じる。中心部から煽り役を配置するなどの対応は可能か。

(中心部からの回答)

応援強度の問題は、クラブ方針である「応援の多様性尊重」によって制約がある。過去には貼り紙などで応援を促す取り組みを行ったが、現在はクラブから「制限するな」という方針が強く、積極的な働きかけが難しい状況である。

応援は強制ではなく、住み分けを前提に自由度を保つべきだと考える。ただし、応援に参加する人が増えれば自然に強度は高まる。現状でもL字エリアで応援する人は増えており、声出しや立ち上がりも活発になっている。今後も応援文化を広げる努力を続けたい。

(参加者)

現在L字エリアで応援しているが、応援に参加する人は確実に増えている。立って声を出す人も多くなり、雰囲気は改善している。ただし、応援に関わらない人も一定数存在するため、強度に差があるのは事実。

応援スタイルは世代や個人の考え方によって異なるが、より多くの人が応援に参加すれば、チームを後押しする力はさらに強くなると信じている。今後も自分のスタイルで応援を続け、応援文化を広げたい。

No.45: ブーイングの是非について

(質問)

試合を見て「戦えていない」と感じた時、否定するわけではないが、ダメなものはダメと伝えるためにブーイングをしてもよいのではないか。今年の結果を踏まえ、どう考えるか。

(中心部からの回答)

ブーイングは初めて来場した観客にとって恐怖感を与える可能性があり、基本的には好ましくない。ただし、今年一年を振り返ると、ブーイングに値する試合があったとしても、全体の流れや次の試合への影響を考え、意図的に避ける傾向があった。

応援のスタイルは試合ごとの状況に左右されるため、ブーイングを完全に否定するわけではない。むしろ「ダメなものはダメ」と伝えることは重要であり、来季以降、試合内容次第ではブーイングが起こる可能性もある。

結論として、ブーイングをするかどうかは「その試合の流れと状況次第」であり、意図的にやめる方針はない。

No.46: 最終戦で使用されたキャラクターについて

(質問)

最終戦で、クラブ公式キャラクターではないものを想起させる演出があった。なぜそのキャラクターを使用したのか。

(中心部からの回答)

特定のキャラクターを使用した理由については、質問者の意図が不明確だが、応援幕やイラストを掲出することは国内外のサッカー文化で一般的な行為である。仙台では十年以上前から、応援の核となる場所に象徴的なマークやイラストを掲出しており、アウェイ戦でも同様の取り組みを行っている。今回の演出もその一環であり、特別な意図やルール違反はない。

No.47:バルコニー部に関する質問

(質問)

一年前、長崎戦で「バルコニー部」と称するグループが問題視された。反省が見られない行動だと思うが、入場禁止は継続されるのか。解除のために何らかの行動をしているのか。

(中心部サポーターの回答)

まず、正確には「仙台サポーターホテルバルコニー支部」である(笑)。質問内容は不明確であり、入場禁止の判断はクラブが行うもので、サポーター側で決めるものではない。

応援活動においては、ルール違反を避けつつ、可能な範囲で最大限の演出を行うことを基本方針としている。過去の事例でも、幕の掲出制限がある場合は代替手段を工夫し、現場で調整してきた。今回も同様に、クラブと確認を取りながら、ルールの範囲内で応援を実施している。心配は不要であり、責任を持って対応している。

○来季(2026年)に向けた応援方針について

(質問)

2026年シーズンの応援について、現時点で中心部が考えていることや方向性はあるか。

(中心部からの回答)

現時点ではゼロベースで議論しており、何も確定していない。応援歌やコールを実施するかどうか、先導役を置くかどうかといった基本的な部分から検討している段階である。

仙台の応援スタイルを半年間「サッカー観戦に集中する期間」とする案も出ているが、成績や観客動員の状況次第で柔軟に対応する方針である。来季は観客数が今年ほど多くならない可能性があるため、応援エリアの配置を試験的に変更する案も検討中。

具体的には、中心部の位置をシャッフルし、ゴール裏やL字エリアなど複数の場所で応援を展開することで、普段応援に参加していない層を巻き込む取り組みを考えている。こうした活動は啓蒙的な意味合いもあり、応援文化の裾野を広げることを目的としている。

ただし、現時点ではすべて未定であり、今後の議論と状況次第で決定する。

(参加者)

今季、新しい応援の考案や雰囲気づくりに取り組んでくれた中心部の皆さんに感謝する。来季の応援についても、新しい応援スタイルを検討してほしい。

特に提案したいのは「全員で手拍子をする応援」である。声出しに抵抗がある人でも、手拍子なら参加しやすく、一体感を生み出せる。

具体例として、過去にあった「元彦選手の応援歌」の中で手拍子が入る場面は非常に盛り上がり、一体感が強かった。こうした手拍子を取り入れた応援は、ゴール裏だけでなくメインスタンドや指定席でも巻き込みやすく、応援文化の裾野を広げる効果があると考えます。

来季の新しい応援を検討する際、この提案を参考にしてもらえると嬉しい。

○議論のまとめとコミットメント(司会者)

本日のサポーターズカンファレンスで出された意見・要望については、事務局からクラブへきちんと伝える。

事務局として、意見・要望及び回答を見てあらかじめ想定していたコミットメントがある。それは「クラブは原則を規定し、現場でのサポーター間の調整はサポーターの責任で自主的に解決する」という基本を大事にしたい、という趣旨である。

具体的には、過剰な席取りや応援スタイルの棲み分け(ゾーニング)に関する議論で出たように、クラブから指示されるのではなく、サポーター自身が責任を持って調整し、健全な応援文化を維持することをクラブに理解してもらう必要がある。

クラブがサポーターを信頼し任せ、サポーターは任された責任を意識して行動する。このコミットメントを、サポカンを通じて得た考え方としてクラブに伝える方針である。

#### ○市民後援会の活動報告

配布資料(A4・1 枚)をご参照いただきたい。詳細な説明は省略するが、後援会はホームゲーム当日だけでなく、年間を通じて様々な活動を行っていることをご理解いただきたい。

特に、ラジオ番組の継続には多額の費用がかかっており、スポンサー会員を募集している。番組は唯一のベガルタ仙台応援番組であり、毎週 30 分間放送している。ぜひ視聴いただき、スポンサーとしてご協力いただけるとありがたい。視聴できない方にはデータ配信も可能である。

#### ○閉会挨拶

以上をもって本日のサポーターズカンファレンスを終了する。ご参加いただいた皆様、リモート参加の皆様にも感謝申し上げます。

以上